

ときめき人

Tokimeki bito



育ててくれた ふるさとに 恩返し

登米町・館山出身

高橋 裕一さん

たかはし ゆういち
1959年生まれ 血液型/A型

Profile

現在、家族と仙台市で暮らしながら登米町と往復生活を送る。趣味はサッカー観戦とランニング。



登米診療所

「自分を育ててくれたふるさとに恩返しがしたかった」と話す登米診療所院長の高橋裕一さん。

高校卒業までの18年間を登米町で過ごした高橋さんは「当時を振り返ると、人と人の距離感がちょうど良く、過ごしやすい地域だった」と話す。栃木県の自治医科大学で医学を学び、卒業後は宮城県内の病院や大学で内科医やリウマチの研究者として活動。2003年に、利府町に診療所を開設して経験を重ねた。知識と技術を身に付けるうちに「いつか生まれ育った登米町で、患者さんに寄り添った医療を提供する診療所を作りたい」と夢を抱くようになり、18年から休診していた市立登米診療所の施設を借り受け、今年5月、診療を開始した。

登米診療所を地域住人の安心した生活を支える存在にしていきたいという思いで、自身の専門であるリウマチの治療だけでなく、総合内科として患者を受け入れている。「地域に根ざした診療所の利点は、医師と患者の距離が近く、症状の変化にいち早く気付けることだと思います。一人一人の心に寄り添った診療を心がけていて、患者さんの症状が改善し、笑顔になってもらえることが大きな喜び」と語る。

「地域との交流が、健康で長生きするためには大切。いずれは、地域の人が集まって、病気のことに限らず、抱えている悩みなどを解消できる場所にしていきたい」と前を向く。高橋さんの診療所は、これからも地域を癒やしていく。

編集後記

▼今号の特集のテーマは集落支援員。そして、記事を書くに当たって、私の中でのもう一つのテーマは笑顔でした。取材を通してたくさん笑顔に出会うことができ、私も笑顔に。ニヤニヤしながら編集する私を見て同僚からの一言、「大丈夫ですか」。怪しく見えますが多分大丈夫です。(高橋)

▼カヌー・SUP教室を取材。事務局が操縦するモーター付きのボートに乗って参加者の皆さんと一緒に川を下りました。ボートの後ろから舞い上がる水しぶきが太陽の光を浴びてキラキラと輝く様子がとてもきれいでした。私もいつかボートを操縦してみたいです。(木戸浦)

▼市公式ホームページでは「広報とめ」の音声データを掲載しています。ポラティアグループ「ハートウェーブ」の皆さんが、心を込めた「声の広報」を届けてくれています。毎回添えられる会員の皆さんのすてきなメッセージ、ぜひお聞きください。(渡邊)



登米市公式ホームページ
<https://www.city.tome.miyagi.jp/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、市政に関する情報などを配信)
<https://mail.cous.jp/tomecity/>



登米市公式 LINE
(市政、イベント情報などを配信)
<https://line.me/R/ti/p/%40972tqqam>